

特定非営利活動法人 日本市民スポーツ海外交流協会
令和5年度 第2回理事会 議事録

- 1.開催日時 令和6年1月20日 午後2:00～午後4:00
2.開催場所 サクラホテル神保町・アネックス
3.理事総数 11名
4.出席者数 6名（書面表決書4名）
出席者（山西哲郎、宇佐美彰朗、前河洋一、保原幸夫、小林均、池上孝則 敬称略）
書面表決書（岩山海渡、鈴木良雄、比嘉正樹、菅原由大 敬称略）
5.議長選任 議長として山西哲郎氏が選出された。

6.議事の経過の概要および議決の結果

第1号議案 前回理事会（4月20日開催分）議事録に関する件
保原氏から各理事に対し過日メールにて送信し、内容を確認していただいたが、特に疑義等
がなかったので承認されたものとする旨報告があった。

第2号議案 議事録署名人の指名について
議事録署名人として宇佐美彰朗氏と保原幸夫氏が選出された。

第3号議案 令和5年度事業報告書案および収支見込みについて
保原氏より当年度の事業報告書案と収支見込みについて説明があり、事業報告書および活動
計算書の内容については承認を得られた。年度明けの次回理事会において確定版について最
終承認を得た後に東京都に提出する。

【事業報告書案の概要】

●ランニング教室

「J S I Eエコノミカルランニング教室」、「熟年ランニングスクール」とともにコロ
ナ騒動の影響で、参加人数は2019年レベルにはまだ戻っていないが、少しずつ増
加の傾向が認められた。延べ参加人数および事業規模は、「エコノミカルランニング
教室」が100人、15万円、「熟年ランニングスクール」が250人、46万円程
度になる見込である。収入分を講師料としているので、収支は±0である。

●国際交流シンポジウム

「日本に立ち上げた国際的な日本スカイランニング協会を知ろう」、「日本の球場
が変わる！人口が4万人のまち北広島市にアメリカ流ベースボールパーク誕生」の
2テーマについてシンポジウムを開催したが、会員以外の参加者は3名のみだった。
参加費無料だったので、収支としては会場使用料9千円の赤字となった。

●北海道マラソン教室

昨年同様、講師派遣という形でマラソン前日にEXPO会場の特設ステージでのトー
クショーに山西理事長が登壇した。聴講者は100人程度だった。実費精算という形
をとっているため、収支は4千円程度の黒字である。

●2023メルボルンマラソン

コロナ後の開催2年目となったので、参加者増加による増収を期待したが、7月に入った途端にマラソンが定員に達し、その後、その他の種目も順次定員に達したので、参加者総数は目標の100人を大きく下回る50人に留まった。

その結果、単年度の収支としては昨年に引き続き47万円程度の赤字となった。

定款記載の事業名では便宜上、現地交流事業と、参加者集客事業に分けているが、それぞれは49万の赤字および2万円の黒字だった。

●調査・研究

ランニング教室を通じて得られた知見を基に、「エコノミカルランニングに関する研究」に関するレポートをまとめており、本年度中に完成する予定である。

そして、エコノミカルランニングを目指したトレーニングは、高齢者に相応しいとの感触が得られたので、「人生100年時代のランニングに関する研究」をランニング学会のPJ研究として取り上げて貰えるように提案書を作成中である。

当面、研究経費はかからない。

【収支決算案】

経常収益；¥1,793,537、経常経費；¥2,413,186 となり、経常外収益¥16,528 を加味すると税引前の当期経常収支は△¥603,121 となり、これに税金¥70,000 を加味すると、次期繰越正味財産は2,265,541 になる見込みである。

第4号議案

令和6年度事業計画案について

●保原氏より、「JSIEエコノミカルランニング教室」、「熟年ランニングスクール」、「北海道マラソン教室」、「エコノミカルランニングに関する研究」、「人生100年時代のランニングトレーニングに関する研究」については継続実施したい旨提案があった。

なお、「2024メルボルンマラソン」については、下記理由により運営ができなくなったので事業活動を断念せざるを得ない旨説明があった。

昨年の状況を踏まえ、大会本部には日本人枠の設定、定員の増員などを申し込んでいた。

その結果、マラソンの定員は8,500人から9,500人に増員されたのだが、それも焼け石に水。何と募集開始後48時間で定員に達してしまった。

その結果を受け、あらためて日本人枠の設定を要望したところ、条件付きで設定しても良いことになった。

しかし、その条件というのは「①参加費を前払いする」ということ、それに加え「②20%のディスカウントなしの全額支払」というものだった。

日本事務局には前払いするだけの内部留保金がなく、皆さんから頂いた参加費を原資として大会事務局に支払を行っていて、20%ディスカウントという形のコミッションが我々の事務局運営資金となっているのでこのコミッションがなくなると事務局の運営ができなくなる。

したがって、残念ながら、日本事務局活動は断念せざるを得なくなった。

【収支予算案】

事業計画案に基づいた予算案では、管理費を会員の年会費で賄わなければ現状では年間収支は20万円程度の赤字になるので、来年度末の繰越正味財産は200万を切る見込みである。

現時点で年会費の未収金3万5千円を加味しての数字なので、これが納入されなければ正味財産額は下方修正されるので、年会費未納の3名の方には納入をお願いしたい。

第5号議案 次期（令和7年度、8年度）理事長の選任について

山西理事長より今期の任期満了をもって勇退したいとの申し出があったので、後任を前河副理事長に打診したところ快諾を得られた。そこで、令和6年度1年間を準備期間として将来構想を考えていただくことになった。

第6号議案 その他

■退会届について

森川理事より、諸事情により1月15日をもって退会したい旨、退会届が提出されたので、理事会として受領した。長い間、ありがとうございました。

■次回理事会について

会計報告書等が確定した後、4月11日(木)19時からZOOM会議で開催することになった。


以上をもって議案全部の審議を終了したので、午後4時00分議長は閉会を宣言し散会した。

上記の議決を明確にするため、議長及び議事録署名人において下記に署名・押印する。

令和6年1月20日

特定非営利活動法人 日本市民スポーツ海外交流協会

議 長

山西哲郎 

議事録署名人

宇佐美彰朗 

議事録署名人

保子幸夫 